

インド、4-6月期の経済成長率はさらに加速 2018年4-6月期は8.2%増

情報提供資料 2018年9月4日

インド政府が発表した2018年4-6月期の実質国内総生産（GDP）成長率は前年同期比で8.2%増となりました。8%を超える成長率は2016年4-6月期（8.1%増）以降で初めてとなります。

▶ 4-6月期のGDP成長率は予想上回る+8.2%、個人消費の加速がけん引

- 8月31日に発表された2018年4-6月期実質GDP成長率は+8.2%（前年同期比、以下同）となりました。市場の事前予想である+7.6%を大きく上回る成長率となり、前期の+7.7%から一段と加速しました。
- 需要項目別では、GDPの5割以上を占める個人消費の加速が目立ちました。前年同期がGST導入の混乱で落ち込んでいたため、輸出も伸びが加速しました。産業別では、建設業の伸びが加速しました。セメントや鉄鋼などへの波及効果の大きい道路建設を中心にインフラ建設活動が堅調であることが背景と見られます。また、製造業が前年同期のマイナス成長から2桁の成長に回復しました。

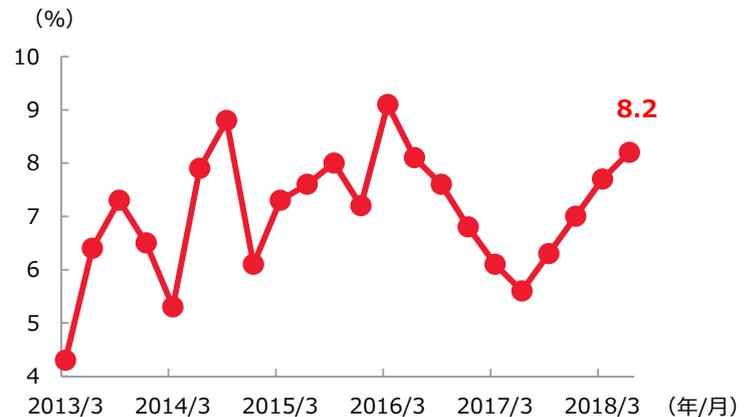
▶ 物品・サービス税（GST）導入後の景気回復・企業業績拡大傾向が続く

- 今回発表されたGDPで、2017年7月1日のGST導入前後の経済の混乱から着実に回復傾向が続いていることが確認されました。既に発表が終わった4-6月期の企業業績も概ね良好な内容となっており、景気回復・企業業績の拡大が勢いを増しつつあります。原油高などインド経済にとってのリスク要因もありますが、来年の下院選挙を控えて、この勢いが続くか注目されます。

▶ 企業の資金需要が旺盛となり銀行貸出が順調、ただし、通貨安と原油高に注意が必要

- 2017年前半を底に、銀行貸出の伸びが回復しており、資金需要が高まってきているものとみられます。低下傾向にあった設備稼働率にも2018年からは底打ちの兆しがあり、これまで低迷してきた設備投資が増加してくれば、さらに資金需要が盛り上がるのが期待されます。貸出の増加は銀行セクターの業績にプラスになると考えられます。
- ただし、トルコリラの急落を受けてインドルピーが対米ドルで下落していることや、8月下旬以降に原油価格が再び上昇傾向にあることに注意が必要であると考えます。

インドの実質GDP成長率（四半期、前年同期比）の推移 （2013年1-3月期～2018年4-6月期）



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドの実質GDP成長率（前年同期比）

	2018年 1-3月期	2018年 4-6月期
実質GDP成長率	7.7%	8.2%
需要項目別	個人消費	8.6%
	政府消費	7.6%
	総固定資本形成	10.0%
	在庫増減	8.6%
	輸出	12.7%
	輸入	12.5%

出所：インド中央統計局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドの銀行貸し出し伸び率（前年比）



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。